

A N N U A L R E P O R T 2 0 0 8

年次報告書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために、翌1991年11月1日に設立されたのが、財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2008年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」（第16回）に、ベトナムのハノイ教育大学名誉教授ファン・グエン・ホン博士を選出しました。ファン博士は、戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、科学的、包括的な調査・研究により地域社会を指導し、マングローブ林の再生に多大な成果をあげられ、コスモス国際賞にふさわしい優れた業績と評価いたしました。

普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を行い、2008年度も有意義な成果をあげることができました。

2009年度も、これまでの実績を踏まえながら、更なる事業の推進を図っていきたいと考えています。また、2010年が花の万博開催20周年に当たりますことから、記念事業の実施に向け、関係機関・団体等のご協力も得ながら、準備を進めたいと存じます。

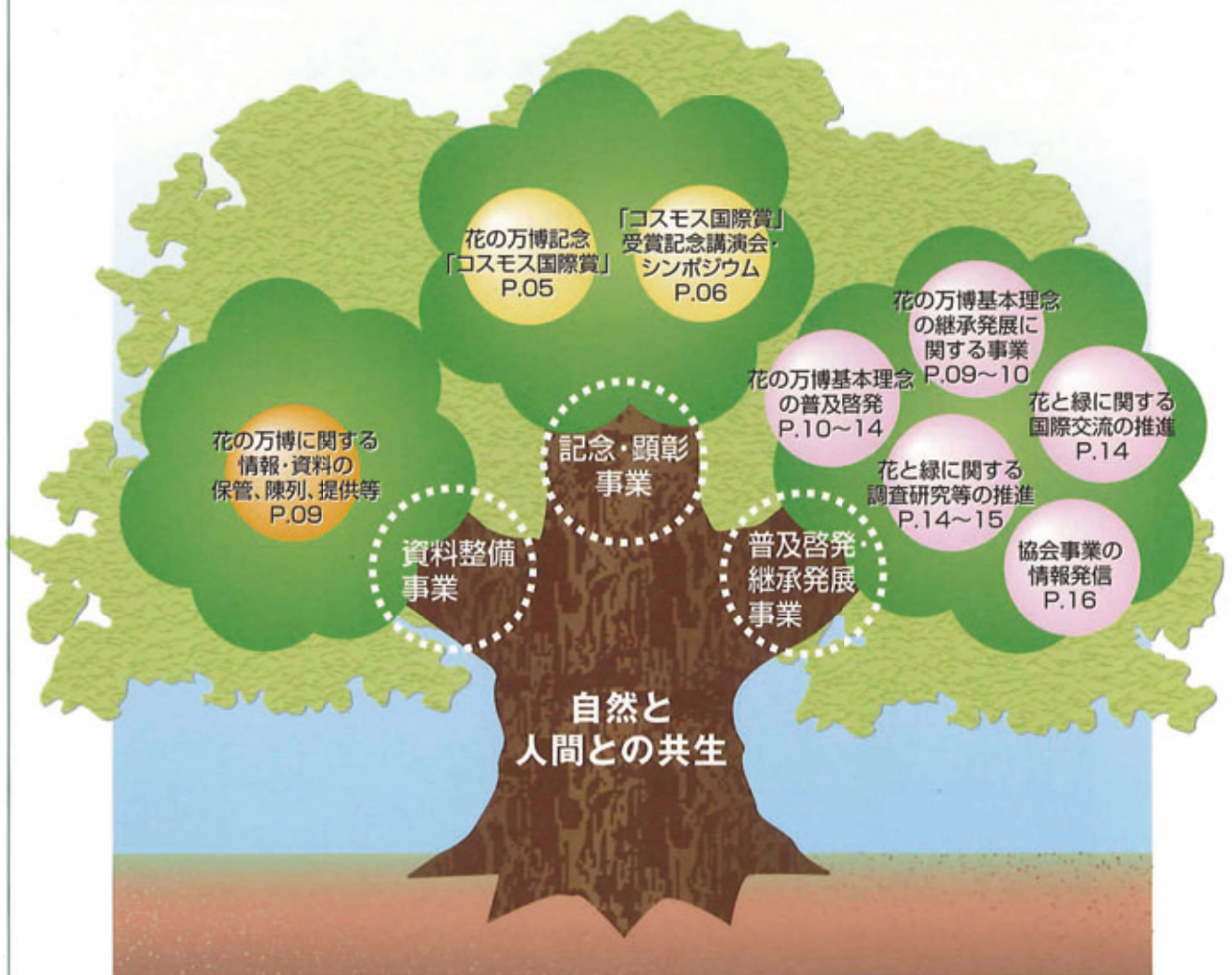
皆様方の当協会に対する更なるご支援とご協力をお願いいたします。

皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者ファン・グエン・ホン博士御夫妻と御息女は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。
(平成20年11月10日 東宮仮御所にて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であるとする。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・
顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 国際花と緑の博覧会の「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2008年(第16回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者15名(国内11名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及び学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成20年(2008年)受賞者の選考・決定等>

- 第1回賞委員会開催(平成19年10月4日)
- 第1回選考委員会開催(平成20年1月25日)
- 第2回・第3回選考委員会開催(平成20年5月26日、5月28日)
- 第4回選考委員会(平成20年6月30日)
- 第2回賞委員会(平成20年6月30日)

2008年コスモス賞受賞者にファン・グエン・ホン博士(ハノイ教育大学名誉教授)を決定。

第58回理事会開催(平成20年7月23日)

賞委員会の決定を承認し、同日、内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



2008年(第16回)コスモス賞受賞者
ファン・グエン・ホン博士

ハノイ教育大学名誉教授

ファン博士は、アジアにおけるマングローブ研究の第一人者である。戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。中でもカンザー地区のマングローブ林再生・保全は世界で類のないものである。

<平成21年(2009年)受賞者の選考>

- 第1回賞委員会開催(平成20年11月4日)
- 第1回選考委員会開催(平成21年1月26日)

2008年(第16回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客及び招待者約420名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時：平成20年11月4日(火) 午後3時～午後5時

場 所：いずみホール【大阪市中央区】

出席者：約420名

次 第：開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 主催者紹介
来賓紹介(駐日ベトナム大使館 グエン・フー・ビン大使、
農林水産省 野村哲郎大臣政務官、国土交通省 松田紀子
大臣官房審議官、小河保之大阪府副知事、森下暁大阪市
副市長) 主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介
受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓
祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会



受賞記念レセプション

日 時：平成20年11月4日(火) 午後5時30分～午後7時

場 所：ホテルニューオータニ大阪【大阪市中央区】

出席者：約400名



記念・
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会・シンポジウム

コスモス国際賞受賞記念講演会 コスモス国際賞授賞式の関連行事として2008年受賞者ファン・ゲン・ホン博士による講演会を開催しました。

| | ●京 都 | ●東 京 |
|------------|---|---|
| 日 時 | 平成20年11月2日(日) 13:30~16:00 | 平成20年11月7日(金) 14:00~16:00 |
| 場 所 | 京都大学芝罫会館 [京都市左京区] | 東京農業大学メディアホール [東京都世田谷区] |
| 講 演 | テーマ 「ベトナムにおけるマングローブと沿岸部住民について」~調和への長く険しい道のり~ 講 師 2008年(第16回)コスモス国際賞受賞者 ファン・ゲン・ホン博士 | |
| 付 属 事 業 | テーマ ファン・ゲン・ホン博士の世界 | シンポジウム |
| | パネリスト等 プレゼンター 松下和夫 (コスモス国際賞選考専門委員会委員) 対談 ファン・ゲン・ホン博士 瀧本貴和(総合地球環境学研究所教授) | パネリスト 向後元彦(砂漠に緑を代表) 中西友子(東京大学大学院教授) 中村武久(東京農業大学名誉教授) 馬場繁幸(琉球大学教授) コーディネーター 岩槻邦男(兵庫県立人と自然の博物館館長) |
| 参加者 | 約120名 | 約200名 |
| 後 援 | 農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、ベトナム大使館、日本熱帯生態学会、 日本マングローブ学会、国際マングローブ生態系協会 | |



受賞者
高校派遣

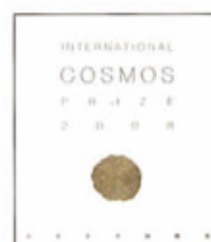
次世代を担う高校生育成のため、昨年度に引き続き受賞者を高校に派遣しました。

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 平成20年11月5日(水) 14:50~16:50 |
| 場 所 | 東京都立日比谷高等学校[東京都千代田区] |
| テーマ | 「ベトナムにおける気候変動と海面上昇問題への挑戦」 ~適応力を持った再生マングローブの役割~ |
| 講 師 | 2008年(第16回)コスモス国際賞受賞者 ファン・ゲン・ホン博士 |
| 参加者 | 1年生 400名 |



2008年コスモス
国際賞報告書の
作成

2008年(第16回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び
記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判 72頁)を作成(1,400部)し、国
内外の関係者に配付しました。



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成20年1月1日現在

| | | |
|------|--------------|---------------------|
| 委員長 | 有馬 朗人 | (財)日本科学技術振興財団会長 |
| 副委員長 | 岸本 忠三 | 大阪大学大学院教授 |
| 委員 | 岩槻 邦男 | 兵庫県立人と自然の博物館館長 |
| 委員 | 梅棹 忠夫 | 国立民族学博物館顧問 |
| 委員 | グナー・オークスト | スウェーデン王立科学アカデミー事務局長 |
| 委員 | 黒川 清 | 前日本学術会議会長 |
| 委員 | 小山 修三 | 吹田市立博物館館長 |
| 委員 | A.H.ザクリ | 国連大学高等研究所所長 |
| 委員 | 鈴木 昭憲 | 東京大学名誉教授 |
| 委員 | 中根 千枝 | 日本学士院第一部部長 |
| 委員 | 中村 桂子 | JT生命誌研究館館長 |
| 委員 | 日高 敏隆 | 総合地球環境学研究所所長 |
| 委員 | オーレ・フィリップソン | 博覧会国際事務局 (BIE) 名誉議長 |
| 委員 | サー・ギリアン・フランス | エデン・プロジェクト科学部長 |
| 委員 | 村上陽一郎 | 国際基督教大学大学院教授 |

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成20年1月1日現在

| | | |
|------|-----------|----------------|
| 委員長 | 小山 修三 | 吹田市立博物館館長 |
| 副委員長 | 加藤 雅啓 | 国立科学博物館植物研究部長 |
| 委員 | ハン・クンリ | ユネスコ テヘラン事務所所長 |
| 委員 | 亀山 章 | 東京農工大学教授 |
| 委員 | 餌取 章男 | 科学ジャーナリスト |
| 委員 | 川勝 平太 | 静岡文化芸術大学学長 |
| 委員 | パトリシア・ライト | ストーニー・ブルック大学教授 |
| 委員 | 今福 道夫 | 京都大学大学院教授 |
| 委員 | 松下 和夫 | 京都大学大学院教授 |
| 委員 | 長谷川真理子 | 総合研究大学院大学教授 |

コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命科学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)

ギリアン フランス卿
Sir Ghillean Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)

ジャック フランソワ バロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)

吉良 龍夫
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)

ジョージ ビールズ シャラー
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

コスモス国際賞歴代受賞者

第5回 平成9年(1997)

リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkinsイギリス・オックスフォード大学博士
1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

第6回 平成10年(1998)

ジャレド・メイソン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamondアメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授
医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

第7回 平成11年(1999)

ウー・チェン・イー(呉 征鑑)
Dr. Wu Zheng-Yi中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長
地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した「中国植物誌」の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

第8回 平成12年(2000)

デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Frederick Attenboroughイギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者
野生生物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。

第9回 平成13年(2001)

アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirnアメリカ・マサチューセッツ工科大学教授
「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。

第10回 平成14年(2002)

チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Stationエクアドル
ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

第11回 平成15年(2003)

ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Ravenアメリカ・ミズーリ植物園園長
花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。

第12回 平成16年(2004)

フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lilloメキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授
常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げてきた。

第13回 平成17年(2005)

ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Paulyカナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。

第14回 平成18年(2006)

ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumarインド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対応をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

第15回 平成19年(2007)

ジョージナ・メアリー・メイス
Dr. Georgina Mary Maceイギリス・ロンドン大学NERC(自然環境調査会議)
個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、現在のIUCN(国際自然保護連合)のレッドリストの根拠となる理論、及びリストのワシントン条約による効果的運用など、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みが国際的に認められた。

第16回 平成20年(2008)

ファン・グエン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hongハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、マングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。中でもカンザー地区のマングローブ林再生・保全は世界で類のないものである。

※肖像写真は受賞時のものです。

資料整備 事業



花の万博に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

公式記録等の保存に関する調査 平成19年度で博覧会の静止画・動画のデジタル化を終えましたが、映像使用等の利便性のため、平成20年度に映像のタイトル付けを行ないました。

博覧会公式記録の斡旋 博覧会后、公式記録動画映像として編集された「花と緑と人と：VHS」を、DVDにリメイクし、民間会社より販売しました。

映像による日本植物誌事業 平成20年度は「カワゴケソウの仲間たち」「ツバキとサザンカ」「ウスユキソウの仲間たち」「サクラソウの仲間たち」「九州中部の火山草原」の5作品を制作しました。なお、作品は当協会ホームページに掲載しています。



情報等の提供 上海万博及び各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

| | |
|------------|-----|
| 海外・国・地方自治体 | 2件 |
| 企業及び個人等 | 11件 |

普及啓発・ 継承発展 事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

伝統園芸植物の保存継承と普及啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状の把握、栽培・育種技術の継承、組織や人材などに関する情報を収集し、保存継承に資するための普及啓発の方向性について検討しました。また、多くの伝統園芸植物が滅失しつつある現状を踏まえて、その代表的な事例である肥後六花の栽培技術や観賞作法についてビデオ撮影などによる記録を行いました。さらに、ニュージーランド（クライストチャーチ）で開催されたIFPPA（国際公園・レクリエーション管理行政連合）のアジア太平洋支部大会において、日本の伝統園芸植物の現状及び保存と普及の必要性についてポスターセッションを行いました。



**KOSMOS
フォーラム**

わが国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成20年度は「21世紀の新しい環境観を探る」を統一テーマとし、3回のフォーラムを開催しました。

第15回 テーマ「花・緑と人」

～人はなぜ花や緑を求めめるのか～

日 時：平成20年9月15日（祝・月）午後2時30分～5時00分

場 所：TOKYO FM HALL [東京都千代田区]

パネリスト：池坊 由紀（華道家、次期家元）

熊倉 功夫（国立民族学博物館名誉教授・
林原美術館館長）

原田 憲一（京都造形芸術大学教授）

コーディネーター：川勝 平太（静岡文化芸術大学学長）

参加者：約200名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



2008年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

第16回 テーマ「森と人」

～里山や鎮守の森の意味を考える～

日 時：平成21年1月12日(祝・月) 午後2時～4時30分

場 所：ベルサール九段 [東京都千代田区]

パネリスト：赤坂 憲雄 (東北芸術工科大学教授)
岩槻 邦男 (兵庫県立人と自然の博物館館長)
窪田 幸子 (広島大学大学院総合科学研究科准教授)
鈴木 邦雄 (横浜国立大学副学長)

コーディネーター：小山 修三 (吹田市立博物館館長)

参加者：約250名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院

第17回 テーマ「水と人」

～水は誰のもの～

日 時：平成21年2月15日(日) 午後2時～4時30分

場 所：ベルサール神田 [東京都千代田区]

パネリスト：沖 大幹 (東京大学生産技術研究所教授)
加藤 尚武 (東京大学特任教授)
佐久間智子 (「環境・持続社会」研究センター理事)

コーディネーター：松下 和夫 (京都大学大学院教授)

参加者：約290名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院

また、平成16年度に実施した第10回、第11回KOSMOSフォーラム「21世紀の新しい人間観を探る」を春秋社より刊行しました。



花の万博基本理念の普及啓発

コスモスセミナー 平成20年度は、前年度に引き続き屋外での自然観察(フィールド型)セミナー並びに一般向け講演会、講師派遣型セミナーを実施しました。

「自然観察教室」 開催日：平成20年8月4日(月)～8月6日(水)
～生まれ昆虫 場 所：関西学術研究都市溝滝・室池地区「アイ・アイ・ランド」[大阪府四條畷市]
好きな子供たち 講 師：保田 淑郎 (大阪府立大学名誉教授)
2008～ 鈴木 邦雄 (富山大学教授)
谷 幸三 (大阪産業大学講師)
南 尚美 (奈良生物研究会幹事)

参加者：近畿圏の小学4～6年生及び中学1年生 30名

特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団

後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会・日本昆虫学会、日本生態学会、日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館

自然観察セミナーで使用するテキストとして、生駒山で見られる昆虫を記した「参加のしおり」を作成しました。



一般向け講演会 テーマ：花とみどりのまちづくり交流会
日 時：平成20年11月15日(土) 午後1時～4時30分
場 所：武蔵記念ホール(国民會館)[大阪市中央区]
講 師：石原 和幸 (ランドスケープアーティスト)

パネリスト：石原 和幸 (同上)
高嶋 清子 (三田花と緑のネットワーク代表)
森 鈴江 (園芸研究家)
太田 義弘 (花と緑の会いぶき代表)

コーディネーター：下村 泰彦 (大阪府立大学大学院准教授)

参加者：約230名

共 催：(社)大阪府公園・都市緑化協会

後 援：農林水産省近畿農政局、国土交通省近畿地方整備局、大阪府、兵庫県、大阪市、交野市、伊丹市、三田市



小学校講師派遣

テーマ「川の水・川に住む生き物など」
 日 時：平成20年6月16日(月) (5時間目)
 場 所：三田市立あかしあ台小学校 [兵庫県三田市]
 講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)
 参加者：小学校4年生 107名



テーマ「川の水・川に住む生き物など」
 日 時：平成20年7月3日(木) (2・3時間目)
 場 所：奈良市立鶴舞小学校 [奈良県奈良市]
 講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)
 参加者：小学校4年生 55名



テーマ「昆虫とは」
 日 時：平成20年7月4日(金) (3・4時間目)
 場 所：広川町立津木小学校 [和歌山県有田郡]
 講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)
 参加者：小学校1～6年生 42名



テーマ「森と川、海の繋がり」
 日 時：平成20年9月8日(月) (5時間目)
 場 所：河内長野市立高向小学校 [大阪府河内長野市]
 講 師：白山 義久 (京都大学フィールド科学教育研究センター
 海域ステーション瀬戸臨海実験所所長)
 参加者：小学校4年生 29名



テーマ「地球環境と温暖化」
 日 時：平成20年11月14日(金) (2時間目)
 場 所：堺市立鳳小学校 [大阪府堺市]
 講 師：松下 和夫 (京都大学大学院地球環境学堂教授)
 参加者：小学校5年生 116名



テーマ「自然と生物」
 日 時：平成20年12月4日(木) (3・4時間目)
 場 所：長浜市立七尾小学校 [滋賀県長浜市]
 講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)
 参加者：小学3～5年生 51名



◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第18回(2008年)
 全国花のまち
 づくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたコンクールです。実施主体である「花のまちづくりコンクール推進協議会」のメンバーとして参画し、以下のとおり実施しました。

応募数：1,458件

入 賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ19点

表彰式

開催日：平成20年10月24日(金)

場 所：虎ノ門パストラル [東京都港区]

受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花の会、
 (財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕



2008年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

ジャパンフラワー フェスティバル 2008inこうち

ジャパンフラワーフェスティバルは、花の万博を契機に、花いっぱい国土、社会並びに生活を実現する国民的運動として、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されています。今回は第18回目であり、ジャパンフラワーフェスティバル2008inこうち実行委員会に参画し、次のとおり開催しました。

開催日：平成20年5月16日(金)～18日(日)

場 所：高知ちばさんセンター、高知県立美術館

入場者：約45,700人

主 催：ジャパンフラワーフェスティバル2008inこうち実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花普及センター、高知県、高知市ほか〕



◆花の万博開催の地元における普及啓発(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

第24回 大阪府 都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成20年度は羽曳野市で開催された第24回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会のPRコーナーを設け、伝統園芸植物のパネルと万年青の展示やパネルクイズを行い、花の種入りティッシュ等を配付しました。

開催日：平成20年5月4日(日)

場 所：峰塚公園 [大阪府羽曳野市]

来場者：約5,000人

主 催：第24回大阪府都市緑化フェア実行委員会

内 容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など



緑化ボランティア のためのネット ワーク支援業務

大阪府域で活動する緑化ボランティアのネットワークを強化するために「緑のまちづくりサロン」の活動に対して支援を行いました。

主 催：(社)大阪府公園・都市緑化協会



まちの緑花実地 講習

都市の緑化の拠点である府営公園を核として、緑化啓発活動などを効果的に行い、府民協働による都市緑化を推進するため、緑化実地講習会の開催に対して支援・協力をを行いました。

主 催：(財)大阪府公園協会



「美しい大阪をつくる 100万本のバラの会」 普及啓発事業

平成18年5月に大阪で開催された「世界バラ会議大阪大会2006」を契機に発足した「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」の活動を広く市民に周知し、募金活動の拡大を得ることにより事業の一層の推進を図り、バラの花咲く美しい大阪の実現と花や緑のまちづくりへの関心を高めました。

主 催：(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会



大阪フラワー・ ガーデンショー 2008

市民が花や緑のまちづくりへの関心と花・緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催しました。

開催日：平成20年4月18日(金)～20日(日)

場 所：花博記念公園鶴見緑地内

水の館展示ホール [大阪市鶴見区]

主 催：大阪フラワー・ガーデンショー2008実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、大阪園芸商組合、大阪園芸サービス協同組合、大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会ほか〕



花と緑のみち モデルプロジェクト

大阪府下において、道路や河川などの軸となるみどりや都市公園等拠点となるみどりの連結性を確保する手法を検討するために、大阪府が行う調査に対して支援を行いました。また、大阪府域の冷涼な海風を都心部まで引き込むことでヒートアイランド現象の緩和に資する「風の道」を形成するために、大阪府が行う基礎調査に対して支援を行いました。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

都市緑化推進運動 国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4~6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護」のつどいや都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

まちづくり月間 平成20年6月の第26回「まちづくり月間」における中央行事(表彰式、シンポジウム)、写真コンテストや標語募集等の事業実施について、関係団体と共に実行委員会に参画、協賛を行いました。

近畿都市緑化祭 近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏域内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間中に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。平成20年度は、兵庫県で開催された「グリーンサーカス2008」に対して事業の支援、協賛を行いました。

開催日：平成20年10月5日(日)
場 所：淡路夢舞台公苑 [兵庫県淡路市]
来場者：約1,500人
主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会、みどりの5団体合同フォーラム
内 容：園芸教室、自然素材を使ったクラフト教室、都市公園の紹介、パネル展示など



後援等一覧

| ●催事名(開催時期) | ●開催場所 | ●主 催 | ●名義 |
|--|---------------------------------------|--|-------|
| 全国ミニチュアガーデンコンテスト (H20.3.30~H21.1.18) | 兵庫県立淡路夢舞台温室 「奇跡の星の博物館」 (兵庫県淡路市) | 国際バラとガーデニング ショー組織委員会 | 後 援 |
| 第33回ハンギングバスケット展 (H20.4.1~4.13) | 花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区) | 大阪市、(財)大阪市ス ポーツ・みどり振興協会、 咲くやこの花館 | 後 援 |
| 第12回花と緑の街づくりコンクール (H20.4.1~10.31) | 大阪府下 | (社)大阪府公園・都市緑 化協会 | 後 援 |
| 大阪フラワーガーデンショー2008 (H20.4.18~4.20) | 花博記念公園鶴見緑地・水の館ホール (大阪市鶴見区) | 「大阪フラワーガーデンシ ョー」実行委員会 | 会 長 賞 |
| 第10回国際バラとガーデニングショー (H20.5.14~5.19) | 「西武ドーム」 (埼玉県所沢市) | 国際バラとガーデニング ショー組織委員会 | 後 援 |
| 大阪ばら祭2008 (H20.5.16~5.18) | 花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区) | (財)大阪市スポーツ・み どり振興協会 | 後 援 |
| 秋色ガーデンショー2008 一伝統園芸ルネサンスー (H20.9.13~11.9) | 兵庫県立淡路夢舞台温室 「奇跡の星の博物館」 (兵庫県淡路市) | (財)淡路花博記念事業協会 | 後 援 |
| 平成20年度「都市緑化月間」 (H20.10.1~10.31) | 全国 | 国土交通省、都道府県、市 町村 | 協 賛 |
| 大阪ばら展2008 (H20.10.17~10.19) | 長居公園 花と緑と自然 の情報センター (大阪市東住吉区) | (財)大阪市スポーツ・み どり振興協会 | 後 援 |
| 第45回大阪城菊の祭典 (H20.10.20~11.16) | 大阪城公園内 (本丸地区)(大阪市中央区) | 大阪市 | 後 援 |
| エコ・グリーンテック2008 (H20.10.31~11.2) | 日比谷公園 (東京都) | エコ・グリーンテック実行 委員会 | 協 賛 |
| かんさいフラワーショー2008 (H20.11.21~11.23) | 花博記念公園鶴見緑地・ 水の館ホール (大阪市鶴見区) | かんさいフラワーショー 2008実行委員会 | 後 援 |
| 第63回日本おもと名品展 (H20.11.23~11.24) | 朱鷺メッセ(新潟市) | (社)日本おもと協会 | 後 援 |
| 平成20年度 大阪府立花の文化園幼児・小中学生花の絵画展 (H21.1.6~2.8) | 大阪府立花の文化園 (大阪府河内長野市) | (財)大阪府みどり公社 | 後 援 |
| 淡路夢舞台ラン展2009 (H21.1.24~3.1) | 兵庫県立淡路夢舞台温室 「奇跡の星の植物館」 (兵庫県淡路市) | (財)淡路花博記念事業協会 | 後 援 |
| 小品盆栽フェア「第17回春雅展」 (H21.3.27~3.29) | 花博記念公園鶴見緑地・水の館ホール (大阪市鶴見区) | (社)全日本小品盆栽協会 | 後 援 |

普及啓発・
継承発展
事業

花と緑に関する国際交流の推進

BIEコスモス賞
への支援事業

花博記念協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援した。

平成20年度は、BIEとサラゴサ万博協会（スペイン）が実施した「BIEコスモス賞」の受賞者ロザリオ国立大学（アルゼンチン）の「自然環境を考慮した衛生設備のプロジェクト」への賞金2万ユーロ（約330万円）を提供しました。



花と緑に関する調査研究等の推進

平成21年度
助成事業

博覧会の基本理念の継承発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与するため、次のとおり事業を実施しました。

〈公募〉

公募期間：平成20年10月14日（火）～11月25日（火）

公募案件：65件

〈審査〉

審査期間：平成20年12月～平成21年2月

〈決定〉

審査結果報告をもとに、理事長が助成可否を決定し、平成21年3月23日（月）開催の第59回理事会において報告を行い、助成対象となった19団体に通知しました。

平成21年度
花博記念協会
助成対象一覧表

| 事業区分 | 事業名 | 助成対象者名 | |
|--|---------------------------------------|----------------------------------|---------------------------|
| 調査研究開発 | 「ゆり」と食をテーマに自然と共生した暮らしから限界集落を考える調査研究事業 | 中津川むらづくり協議会 | |
| | 仙台市の植物相調査事業 | (財) 仙台市公園緑地協会 | |
| | 越前町立福井総合植物園植物標本整理事業 | (財) 越前町朝日公共施設管理公社 | |
| | 草木とともに生きる～山里の聞き書き～ | (特活) 山里文化研究所 | |
| | 淀川水系における水生・湿性植物の分布調査 | (特活) 大阪自然史センター | |
| | 花と緑に関連する生きがい有無別に見た高齢者の生存維持追跡研究 | 首都大学東京・都市システム専攻・花と緑の生存意義研究会 | |
| | 活動・行催事 | 重信川汽水域の環境特性理解とヨシ原の再生・保全活動 | 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム |
| | | 竹林の健康診断 | (特活) 緑と水の連絡会議 |
| | | 「第9回世界自然・野生生物映像祭」の併催イベント「花と緑の3D」 | (特活) 地球映像ネットワーク |
| | | ランドスケープデザイン学生設計競技2009 | (社) ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部 |
| グリーンカーテン「みんなの和泉5℃さげろ」 | | (社) 和泉青年会議所 | |
| 「自然生態園」における維持管理手法及び生物・環境モニタリング調査結果とりまとめと環境教育活動等の実践 | | 貝塚市立自然道学館「わくわくクラブ」 | |
| 焼畑公園づくり | | 焼畑による山おこしの会 | |
| 亀岡市植生調査 | | 亀岡植物誌研究会 | |
| 希少になったササユリ保護、増殖事業 | | 深野ササユリ保存会 | |
| 三田花と緑のネットワーク10周年記念事業「花と緑が豊かな心とまちを育む」まちなみ交流会 | | 三田花と緑のネットワーク | |
| 稚内市「最北の桜」桜守事業（コブ病等の撃退事業） | 稚内市歴史・まち研究会 | | |
| ふるさとの森を守れ！松毛川子どもグリーンクラブの結成 | (特活) グラウンドワーク三島 | | |
| 菜の花プロジェクト「醫学校の子供たちと共に」 | 熊本グリーンヘルパーの会 | | |

平成20年度
主な助成対象事業



白神山地ブナ植樹フェスタ
in 赤石川開催事業



ツマグロキチョウに春を呼べ!!
～ため池堤体法面改修における
希少植物の保全活動～



都市域復元型ビオトープにおける自然回復状況の
モニタリングおよび環境教育活動

※他15事業

花博記念協会助成事業審査会 委員 平成21年3月31日現在

| | | |
|------|-------|---------------------|
| 委員長 | 近藤 公夫 | 奈良女子大学 名誉教授 |
| 副委員長 | 尼崎 博正 | 京都造形芸術大学 教授 |
| 委員 | 今西 英雄 | JFTD学園日本フラワーカレッジ 校長 |
| 委員 | 佐倉 統 | 東京大学大学院情報学環 教授 |
| 委員 | 須磨佳津江 | キャスター・ジャーナリスト |
| 委員 | 長村 智司 | 大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長 |
| 委員 | 服部 明世 | 大阪芸術大学芸術学部 教授 |
| 委員 | 鷗谷いづみ | 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 |

普及啓発・
継承発展
事業

協会事業の情報発信

ホームページ
運営

当協会ホームページや「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」の各ウェブサイトを実施事業の理解促進・普及のために活用するとともに、情報の更新、サイトの維持管理を行いました。



<http://expo90.jp/>



<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>

コスモス国際賞
パンフレットの
刷新

各受賞者の最新経歴を掲載した冊子を作成しました。



プレスネット
ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施する等、協力体制（プレスネットワーク）の構築を図りました。

毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」
（特別協力：大阪府立園芸高等学校）

場 所：大阪市立豊崎中学校 [大阪府大阪市]
内 容：壁面ビオトープ

場 所：高槻市立竹の内小学校 [大阪府高槻市]
内 容：バタフライガーデン

場 所：能勢町立田尻小学校 [大阪府豊能郡]
内 容：バタフライガーデン

場 所：大淀町立大淀桜ヶ丘小学校 [奈良県吉野郡]
内 容：トンボ池

場 所：奈良学園中学校 [奈良県大和郡山市]
内 容：里地・里山の整備

場 所：尼崎市立湖小学校 [兵庫県尼崎市]
内 容：トンボ池、バタフライガーデン、壁面ビオトープ

また、生態園の継続的な活用を図るために、生態園の作り方や維持管理の仕方、授業でも活用できるプログラムなどを記した「学校生態園活用マニュアル」を作成しました。



組織運営

理事会 2008年度開催実績

| | ●開催日 | ●場 所 | ●議 題 |
|---------|-------------------|------------------|--|
| 第56回理事会 | 平成20年 4月1日(火) | 協会会議室 | 役員報酬の件 |
| 第57回理事会 | 平成20年 6月25日(水) | 経団連会館 | 平成19年度事業報告及び収支決算の件 |
| 第58回理事会 | 平成20年 7月23日(水) | ホテルニューオータニ 東京 | 2008年(第16回)花の万博記念「コスモス国際賞」 受賞者の承認の件 |
| 第59回理事会 | 平成21年 3月23日(月) | 経団連会館 | 平成21年度事業計画及び収支予算の件 役員報酬改定の件 常務理事の件 |

評議員会 2008年度開催実績

| | ●開催日 | ●場 所 | ●議 題 |
|----------|-------------------|---------|-------------------------------|
| 第29回評議員会 | 平成20年 4月1日(火) | 協会会議室 | 理事の選任の件 評議員会長の互選の件 |
| 第30回評議員会 | 平成21年 3月13日(金) | 千里阪急ホテル | 平成21年度事業計画及び収支予算の件 理事の選任の件 |

2008年度決算

貸借対照表総括表 平成21年3月31日現在

| 科目 | 一般会計 | 記念基金会計 | 基本財産会計 | 内部取引消去 | 合計 |
|---------------------|-------------|---------------|-------------|--------------|----------------|
| I 資産の部 | | | | | |
| 1. 流動資産 | | | | | |
| 現金預金 | 120,934,590 | | | | 120,934,590 |
| 未収金 | 125,452,998 | | | △125,452,998 | 0 |
| 未収収益 | 4,755,754 | 115,885,438 | 9,567,560 | | 130,208,752 |
| 有価証券 | 25,323,000 | | | | 25,323,000 |
| 流動資産合計 | 276,466,342 | 115,885,438 | 9,567,560 | △125,452,998 | 276,466,342 |
| 2. 固定資産 | | | | | |
| (1) 基本財産 | | | | | |
| 基本財産投資有価証券 | | | 800,000,000 | | 800,000,000 |
| 基本財産合計 | | | 800,000,000 | | 800,000,000 |
| (2) 特定資産 | | | | | |
| 退職給付引当資産 | 34,160,400 | | | | 34,160,400 |
| 事業推進引当資産 | 218,044,000 | | | | 218,044,000 |
| 記念基金 | | 9,040,537,000 | | | 9,040,537,000 |
| 特定資産合計 | 252,204,400 | 9,040,537,000 | | | 9,292,741,400 |
| (3) その他の固定資産 | | | | | |
| 什器備品 | 525,241 | | | | 525,241 |
| その他の固定資産合計 | 525,241 | | | | 525,241 |
| 固定資産合計 | 252,729,641 | 9,040,537,000 | 800,000,000 | | 10,093,266,641 |
| 資産合計 | 529,195,983 | 9,156,422,438 | 809,567,560 | △125,452,998 | 10,369,732,983 |

単位:円

| 科目 | 一般会計 | 記念基金会計 | 基本財産会計 | 内部取引消去 | 合計 |
|------------------------------|-------------|-----------------|---------------|--------------|-----------------|
| II 負債の部 | | | | | |
| 1. 流動負債 | | | | | |
| 未払金 | 40,448,552 | 115,885,438 | 9,567,560 | △125,452,998 | 40,448,552 |
| 預り金 | 1,211,702 | | | | 1,211,702 |
| 賞与引当金 | 6,322,169 | | | | 6,322,169 |
| 流動負債合計 | 47,982,423 | 115,885,438 | 9,567,560 | △125,452,998 | 47,982,423 |
| 2. 固定負債 | | | | | |
| 退職給付引当金 | 34,160,400 | | | | 34,160,400 |
| 事業推進引当金 | 370,000,000 | | | | 370,000,000 |
| 固定負債合計 | 404,160,400 | | | | 404,160,400 |
| 負債合計 | 452,142,823 | 115,885,438 | 9,567,560 | △125,452,998 | 452,142,823 |
| III 正味財産の部 | | | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | | | |
| 出納金 | | | 800,000,000 | | 800,000,000 |
| 寄付金 | | 9,200,000,000 | | | 9,200,000,000 |
| 理事会において記念基金に 入れることを議決した財産 | | 200,000,000 | | | 200,000,000 |
| 特定資産評価差額金 | | △338,463,000 | | | △338,463,000 |
| 指定正味財産合計 | | 9,040,537,000 | 800,000,000 | | 9,840,537,000 |
| (うち基本財産への充当額) | | | (800,000,000) | | (800,000,000) |
| (うち特定資産への充当額) | | (9,040,537,000) | | | (9,040,537,000) |
| 2. 一般正味財産 | 77,053,160 | | | | 77,053,160 |
| 正味財産合計 | 77,053,160 | 9,040,537,000 | 800,000,000 | | 9,917,590,160 |
| 負債及び正味財産合計 | 529,195,983 | 9,156,422,438 | 809,567,560 | △125,452,998 | 10,369,732,983 |

正味財産増減計算書総括表 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位:円

| 科目 | 一般会計 | 記念基金会計 | 基本財産会計 | 内部取引消去 | 合計 |
|----------------------|-------------|---------------|-------------|--------------|----------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | |
| 指定正味財産からの振替額 | | 457,638,241 | 39,440,000 | | 497,078,241 |
| 指定正味財産受取利息振替額 | | 457,638,241 | 39,440,000 | | 497,078,241 |
| 特定資産運用益 | 9,232,257 | | | | 9,232,257 |
| 特定資産受取利息 | 9,232,257 | | | | 9,232,257 |
| 雑収益 | 1,478,536 | | | | 1,478,536 |
| 受取利息 | 763,448 | | | | 763,448 |
| 宿舍使用料収益 | 460,000 | | | | 460,000 |
| 雑収益 | 255,088 | | | | 255,088 |
| 他会計からの繰入額 | 497,078,241 | | | △497,078,241 | 0 |
| 基本財産会計からの繰入額 | 39,440,000 | | | △39,440,000 | 0 |
| 記念基金会計からの繰入額 | 457,638,241 | | | △457,638,241 | 0 |
| 有価証券評価益 | 1,128,000 | | | | 1,128,000 |
| 有価証券評価益 | 1,128,000 | | | | 1,128,000 |
| 経常収益計 | 508,917,034 | 457,638,241 | 39,440,000 | △497,078,241 | 508,917,034 |
| (2) 経常費用 | | | | | |
| 事業費 | 374,801,443 | | | | 374,801,443 |
| 記念事業費 | 208,380,781 | | | | 208,380,781 |
| 資料等整備費 | 4,861,153 | | | | 4,861,153 |
| 普及啓発費 | 161,559,509 | | | | 161,559,509 |
| 管理費 | 86,833,516 | | | | 86,833,516 |
| 人件費 | 55,451,125 | | | | 55,451,125 |
| 管理諸費 | 31,382,391 | | | | 31,382,391 |
| 特定資産売却損 | 685,736 | | | | 685,736 |
| 事業推進引当資産売却損 | 685,736 | | | | 685,736 |
| 特定資産評価損 | 75,856,000 | | | | 75,856,000 |
| 事業推進引当資産評価損 | 75,856,000 | | | | 75,856,000 |
| 他会計への繰出額 | | 457,638,241 | 39,440,000 | △497,078,241 | 0 |
| 一般会計への繰出額 | | 457,638,241 | 39,440,000 | △497,078,241 | 0 |
| 経常費用計 | 538,176,695 | 457,638,241 | 39,440,000 | △497,078,241 | 538,176,695 |
| 当期経常増減額 | △29,259,661 | | | | △29,259,661 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | | |
| 経常外収益計 | | | | | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | | | |
| 経常外費用計 | | | | | 0 |
| 当期経常外増減額 | | | | | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | △29,259,661 | | | | △29,259,661 |
| 一般正味財産期首残高 | 106,312,821 | | | | 106,312,821 |
| 一般正味財産期末残高 | 77,053,160 | | | | 77,053,160 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | | |
| 基本財産運用益 | | | 39,440,000 | | 39,440,000 |
| 基本財産受取利息 | | | 39,440,000 | | 39,440,000 |
| 記念基金運用収益 | | 457,638,241 | | | 457,638,241 |
| 記念基金受取利息 | | 457,638,241 | | | 457,638,241 |
| 特定資産評価損 | | 650,358,000 | | | 650,358,000 |
| 記念基金投資有価証券評価損 | | 650,358,000 | | | 650,358,000 |
| 一般正味財産への振替額 | | 457,638,241 | 39,440,000 | | 497,078,241 |
| 一般正味財産への振替額 | | 457,638,241 | 39,440,000 | | 497,078,241 |
| 当期指定正味財産増減額 | | △650,358,000 | | | △650,358,000 |
| 指定正味財産期首残高 | | 9,690,895,000 | 800,000,000 | | 10,490,895,000 |
| 指定正味財産期末残高 | | 9,040,537,000 | 800,000,000 | | 9,840,537,000 |
| III 正味財産期末残高 | 77,053,160 | 9,040,537,000 | 800,000,000 | | 9,917,590,160 |

キャッシュ・フロー計算書総括表 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位：円

| 科目 | 一般会計 | 記念基金会計 | 基本財産会計 | 内部取引消去 | 合計 |
|-----------------------------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|
| I 事業活動によるキャッシュ・フロー | | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | | |
| 基本財産運用収入 | | | 39,440,000 | | 39,440,000 |
| 基本財産利息収入 | | | 39,440,000 | | 39,440,000 |
| 特定資産運用収入 | 33,449,458 | 465,338,063 | | | 498,787,521 |
| 記念基金利息収入 | | 465,338,063 | | | 465,338,063 |
| 特定資産利息収入 | 33,449,458 | | | | 33,449,458 |
| 雑収入 | 1,483,436 | | | | 1,483,436 |
| 受取利息収入 | 768,348 | | | | 768,348 |
| 宿舍使用料収入 | 460,000 | | | | 460,000 |
| 雑収入 | 255,088 | | | | 255,088 |
| 他会計からの繰入金収入 | 504,778,063 | | | △504,778,063 | 0 |
| 基本財産会計からの繰入金収入 | 39,440,000 | | | △39,440,000 | 0 |
| 記念基金会計からの繰入金収入 | 465,338,063 | | | △465,338,063 | 0 |
| 事業活動収入計 | 539,710,957 | 465,338,063 | 39,440,000 | △504,778,063 | 539,710,957 |
| 2. 事業活動支出 | | | | | |
| 事業費支出 | 213,952,541 | | | | 213,952,541 |
| 記念事業費支出 | 104,261,031 | | | | 104,261,031 |
| 資料等整備費支出 | 2,762,849 | | | | 2,762,849 |
| 普及啓発費支出 | 106,928,661 | | | | 106,928,661 |
| 管理費支出 | 196,002,815 | | | | 196,002,815 |
| 人件費支出 | 150,501,559 | | | | 150,501,559 |
| 管理諸費支出 | 45,501,256 | | | | 45,501,256 |
| 他会計への繰入金支出 | | 465,338,063 | 39,440,000 | △504,778,063 | 0 |
| 一般会計への繰入金支出 | | 465,338,063 | 39,440,000 | △504,778,063 | 0 |
| 事業活動支出計 | 409,955,356 | 465,338,063 | 39,440,000 | △504,778,063 | 409,955,356 |
| 事業活動によるキャッシュ・フロー | 129,755,601 | | | | 129,755,601 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | | |
| 敷金・保証金戻り収入 | 600,000 | | | | 600,000 |
| 保証金戻り収入 | 600,000 | | | | 600,000 |
| 特定資産売却収入 | 16,848,442 | | | | 16,848,442 |
| 事業推進引当資産売却収入 | 16,848,442 | | | | 16,848,442 |
| 投資活動収入計 | 17,448,442 | | | | 17,448,442 |
| 2. 投資活動支出 | | | | | |
| 特定資産取得支出 | 64,639,700 | | | | 64,639,700 |
| 退職給付引当資産取得支出 | 4,639,700 | | | | 4,639,700 |
| 事業推進引当資産取得支出 | 60,000,000 | | | | 60,000,000 |
| 投資活動支出計 | 64,639,700 | | | | 64,639,700 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △47,191,258 | | | | △47,191,258 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | | | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | | | |
| IV 現金及び現金同等物の増減額 | 82,564,343 | | | | 82,564,343 |
| V 現金及び現金同等物の期首残高 | 38,370,247 | | | | 38,370,247 |
| VI 現金及び現金同等物の期末残高 | 120,934,590 | | | | 120,934,590 |

財団の概要（平成21年4月1日現在）

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan. 1990 |
| 設立趣旨 | 1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。 |
| 設立年月日 | 1991年（平成3年）11月1日 |
| 主務官庁 | 農林水産省、国土交通省 |
| 所在地 | 〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号 |

役員

| | | |
|------|-------|-------------------|
| 会長 | 今井 敬 | (社)日本経済団体連合会名誉会長 |
| 副会長 | 野村明雄 | 大阪商工会議所会頭 |
| 理事長 | 牧野 徹 | 元内閣総理大臣補佐官 |
| 専務理事 | 日尾野興一 | 常勤 |
| 常務理事 | 井上 恵 | 常勤 |
| 理事 | 井手久登 | 東京大学名誉教授 |
| 理事 | 今西英雄 | JFTD学園日本フラーカレッジ校長 |
| 理事 | 小河保之 | 大阪府副知事 |
| 理事 | 北山啓三 | 大阪市副市長 |
| 監事 | 北山 諒一 | 公認会計士 |
| 監事 | 堀井良股 | (財)大阪21世紀協会理事長 |

任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

評議員

| | | |
|-------|---------|---------------------|
| 評議員会長 | 梅 棹 忠 夫 | 国立民族学博物館顧問 |
| 評議員 | 青 木 保 之 | (財)首都高速道路協会顧問 |
| 評議員 | 麻 生 渡 | 全国知事会会長 |
| 評議員 | 小林庄一郎 | 関西電力(株)顧問 |
| 評議員 | 近 藤 公 夫 | 奈良女子大学名誉教授 |
| 評議員 | 佐々木正峰 | 国立科学博物館館長 |
| 評議員 | 佐藤 四 郎 | (社)日本造園建設業協会会長 |
| 評議員 | 佐藤安弘 | キリンホールディングス(株)名誉相談役 |
| 評議員 | 堂 元 光 | 日本放送協会大阪放送局局長 |
| 評議員 | 長 倉 三 郎 | 前日本学士院長 |
| 評議員 | 橋 下 徹 | 大阪府知事 |
| 評議員 | 畑 中 孝 晴 | (財)日本花普及センター理事長 |
| 評議員 | 波多野敬雄 | (学)学習院院長 |
| 評議員 | 濱 口 義 廣 | (財)日本穀物検定協会会長 |
| 評議員 | 樋 口 武 男 | 大阪商工会議所副会頭 |
| 評議員 | 平 松 邦 夫 | 大阪市長 |
| 評議員 | 松 下 正 幸 | (財)松下幸之助花の万博記念財団理事長 |
| 評議員 | 山 本 文 男 | 全国町村会会長 |

任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

顧問

| | |
|---------|----------------------|
| 大 島 靖 | (財)大阪国際交流センター名誉顧問 |
| 岸 昌 | 大阪府立中之島図書館名誉館長 |
| 豊 蔵 一 | (社)日本野球機構セントラル野球連盟会長 |
| 中 川 和 雄 | 大阪日韓親善協会会長 |

任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

参 与

| | |
|---------|--------------------|
| 泉 眞 也 | 環境プロデューサー |
| 岩 槻 邦 男 | 兵庫県立人と自然の博物館館長 |
| 久 野 明 子 | (社)日米協会理事 |
| 澤 田 隆 治 | (社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問 |
| 中 村 桂 子 | JT生命誌研究館館長 |
| 平 野 侃 三 | 東京農業大学名誉教授 |
| 樋 口 春 三 | (学)平松学園大分短期大学学長 |
| 松 延 洋 平 | ジョージタウン大学客員教授 |
| 松 本 洋 | (財)国際文化会館顧問 |
| ルイ・サトウ | 在仏建築家 |

任期:平成20年4月1日～平成22年3月31日

協会事務局 (TEL : 06-6915-4500、FAX : 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL : 06-6915-4500)
〈理事会・評議員関係、予算・決算、基金運用等〉
- ◆企画部 (TEL : 06-6915-4516)
〈助成事業、伝統園芸植物の普及啓発、花と緑に関する普及啓発等〉
- ◆事業部 (TEL : 06-6915-4513)
〈コスモス国際賞関係、KOSMOSフォーラム、コスモスセミナー関係等〉

博覧会に関する記念事業

1. 2009年(第17回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2009年(第17回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成21年度は、2009年の受賞者の選考、決定及び2010年(第18回)の選考準備を行います。2009年の受賞者は6月下旬を目途に承認、発表し、10月27日に授賞式を開催します。

2. 受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期：平成20年11月上旬

開催場所：東京と大阪の2カ所

博覧会に関する情報、資料の整理、保存

映像による日本植物誌事業

(PPH：プラント・フォト・ハンティング)

花の万博当時から撮影し蓄積している日本の植物動画映像(約850時間、約4,000種)のデータベースが平成17年度に概成しました。平成18年度から、このデータを基に、「サクラソウ」「コウヤマキ」などの作品を制作してきており、平成21年度においても10作品ほどを制作し、PPHのPRと有効活用を図ります。

博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

1. 理念の継承発展に関する調査

◆伝統園芸植物の保存継承と普及啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物の保存継承を図るため、伝統園芸植物とその文化に関する普及啓発映像、冊子、静止画データベースなど各種普及啓発用ツールの制作を継続し、花や緑に関するイベントへの出展やシンポジウムなどへの参加による普及啓発活動を行います。

2. 理念の継承発展の推進事業

◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学の各分野を越えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを引き続き開催します。

◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、協会事業に関係する学者、知識人等を講師に招き、セミナー(自然観察教室、小学校への講師派遣)を引き続き実施します。

3. 花と緑に関する国際交流の推進

博覧会国際事務局(BIE)と共催で、花の万博の理念を継承し、かつ今後開催される国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞を、平成22年開催の上海万博での授与について協議を行います。

4. 花と緑に関する全国的な普及啓発

◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成21年度は19回目を迎えます。

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

◆ジャパンフラワーフェスティバル

花の万博開催を契機に、花いっぱい国土、社会並びに日常生活を実現するため、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されてきましたが、平成21年度からは、ジャパンフラワーフェスティバルin東京丸の内として、平成20年度から始まった丸の内フラワーウィークスと併せて開催します。

◆花育活動推進事業

花育とは、農林水産省、国土交通省及び文部科学省の指導・支援の下、花き業界や造園業界等の関係団体が主体となって、花や緑を通じて子供たちの情操教育を行うもので、平成20年度から全国花育活動推進協議会に参画して、その推進に努めます。

◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体及び各種団体等との共催等により実施します。また、平成20年度から新たに、大阪府や大阪市とともに協議会を設けた道路や民有地等で緑のネットワークの構築を図る「花と緑のみちモデルプロジェクト」の推進を引き続き行います。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

5. 花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を引き続き行います。

また、これまでの助成事業の「成果発表会」を開催します。

6. 情報発信運営に関する業務

◆協会ホームページの運営等

協会が実施する事業への理解促進及び普及のため、協会のホームページ並びに「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレット及び年次報告書を作成します。

◆プレスネットワークの構築

コスモス国際賞をはじめ協会事業の認知度を高めるため、プレス等との共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

コスモス国際賞の意義、受賞者の研究業績、授賞式及び記念講演会の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等の各種情報を収集し、これらを協会ホームページで紹介します。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp/hanahaku/>

EXPO'90
FOUNDATION